

+ 輸血情報

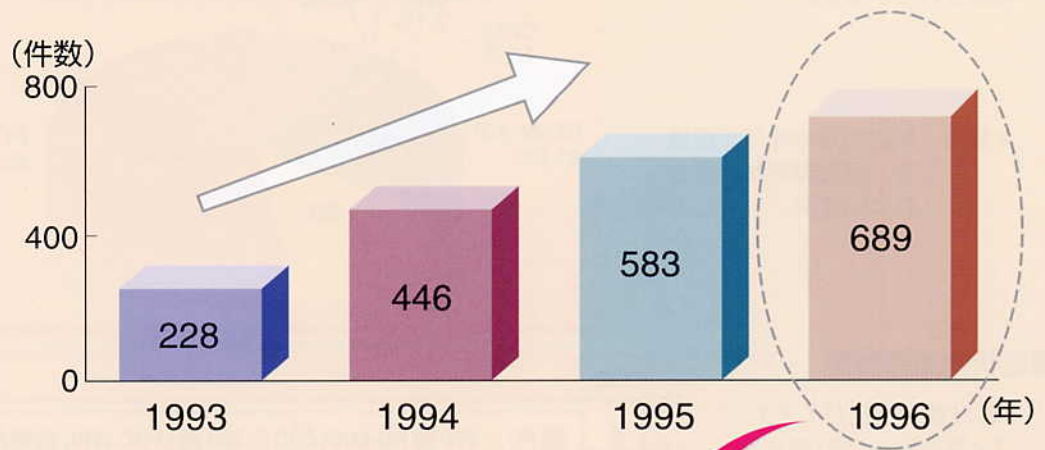
【赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用—1996年—】

1996年の1年間に赤十字血液センター(以下、血液センター)に報告された輸血副作用の中で最も多い非溶血性輸血副作用について示します。

●輸血副作用報告件数

(輸血との因果関係が低いものも含む)

輸血副作用、合併症報告件数の推移



1996年



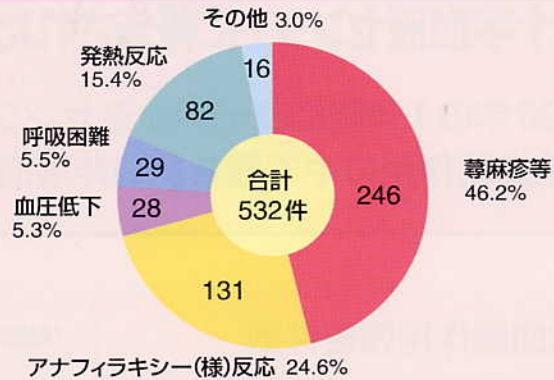
(うち確定:11例) (うち因果関係の高い例:2例)

非溶血性副作用が最も多く、全体の77%を占めています。

●非溶血性輸血副作用 (1996年)

■副作用の種類

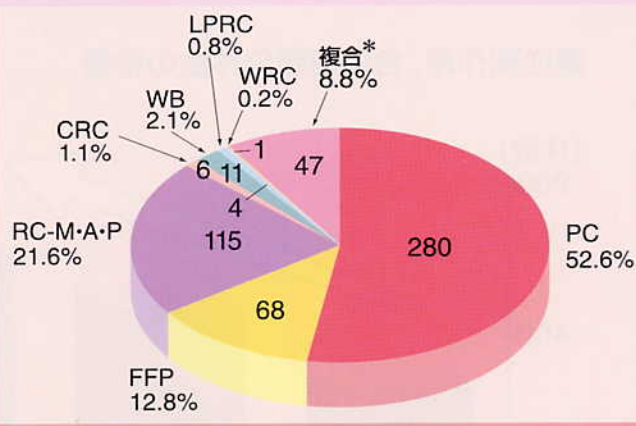
昨年(1995年)とほぼ同様ですが、皮膚症状等、その他のアナフィラキシー(様)症状を伴わない血圧低下症例の報告が増加しています。



■原因製剤

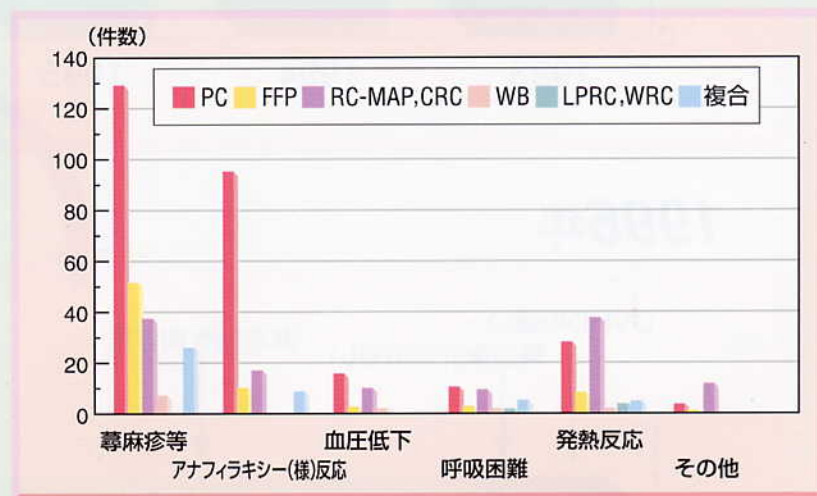
血小板輸血による副作用が多く報告されています。

*複合：輸血血液の種類が複数で、原因製剤が特定されない症例。



■症状別原因製剤

「麻疹等」及び「アナフィラキシー(様)反応」においては血小板製剤が、「発熱反応」においては赤血球製剤がそれぞれ主要原因製剤となっています。



副作用が発生した場合は、直ちに血液センター医薬情報担当者(MR)までご連絡ください。

血液センターでは輸血副作用の原因究明のための検査を行っています。
輸血に用いた血液バッグやセグメント等の保管、患者血液(輸血前・後)の提供等のご協力をお願いします。

日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部
〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
秀和芝パークビルB館14階
TEL 03-5733-8226 FAX 03-5733-8235

■ご注文・お問い合わせ